

## 小児インフルエンザ治療における アドヒアランス向上に向けた薬局薬剤師の関与について

○松元麻耶<sup>1</sup>、朝田卓磨<sup>2</sup>、落合鼓<sup>3</sup>

1 総合メディカル（株）そうごう薬局柳崎店 2 ららぼーと富士見店

3 総合メディカル（株）

【目的】小児における薬物治療では、味やにおいを理由にアドヒアランス不良になりがちで、特に漢方薬においては服用が困難な例が多く見られる。そこで、小児インフルエンザに対して処方された漢方薬の飲みづらさを改善するため、薬局が医師に対して飲み易くなるよう調剤方法の提案を行い、処方後に保護者への電話で患児の服用状況および経過を聴取して医師へ報告することで、アドヒアランス向上に寄与できないかと考え取組みを行ったので報告する。

【方法】インフルエンザと医師が診断した患者のうち、麻黄湯とオセルタミビル塩酸塩ドライシロップが処方され服薬情報提供に同意の取れた7歳未満の患児を対象とした。飲み易くするために調剤方法を検討し医師に提案。対象者には、両薬剤を白湯に溶かし単シロップで甘味を付けて提供し服用方法や保管方法のアドバイスをを行った。4,5日後に電話で服用状況を確認しアドヒアランス不良例へは再度アドバイスした。その際に解熱時間や自覚症状を調査し、聴取結果を医師へ情報提供した。

【結果】調剤方法の工夫の結果、混合により患児及び保護者の服用の手間や負担が軽減され、かつ、単シロップを加えることで苦味が軽減し飲み易さにつながった。対象者は28名であり、そのうち電話確認時に問題なく服用できていると回答した患児は22名であった。さらに、自覚症状についても聴取したところ、服薬開始から平熱になるまでの時間は30時間(中央値)であった。投薬時と比較し電話確認時には自覚症状の改善を認めており、特に倦怠感で効果が高かった。なお、タミフルドライシロップ®のインタビューフォームによると、単独投与時には37.4度以下への解熱時間は35.3時間(中央値)と報告されている。

【考察】服用が中断されがちな小児に対する漢方薬を含む処方に対し、薬局が調剤方法の提案を行い、服薬状況等を確認して医師への報告を積極的に行うことで、小児インフルエンザ治療においてアドヒアランスの維持に寄与できた。また、処方後に電話でアドバイスするなどの薬局から患者への働きかけにより、薬局と患者との信頼関係構築に大きく貢献したと考える。さらに、大人で麻黄湯とオセルタミビル塩酸塩の併用による解熱時間や倦怠感等の自覚症状の早期改善について既存の報告があるが、今回、小児でも同じ傾向が見られた。

【キーワード】小児 アドヒアランス インフルエンザ治療 麻黄湯